

1

株式会社丸井グループ

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> ● G H G 排出量をバリューチェーン全体で見える化することで、今後の取組みを検討し削減に取り組む。 ● スコープ3の算定により、スコープ1・2とともに削減目標を策定。スコープ3は2030年度までに、2016年度比で35%削減する目標を掲げ、19年9月にS B T (Science Based Targets)イニシアチブの「1.5℃」目標に認定。 ● お客さま、サプライヤー等とともにサプライチェーン全体での共創により取組んでいく。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ● カテゴリごとの算定の軽重を考慮しつつ、継続的に排出量の推移を確認。 ● 「ESGデータブック」、「共創経営レポート」や「共創サステナビリティレポート」等で、上記の算定結果と継続的な推移を記載し、対外的に報告。 ● C D P 等各種アンケートへの回答。 ● C S R 調達にて、サプライヤーとの削減意識の醸成に向けた開示資料として活用。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"> ● カテゴリごとの温室効果ガス排出量を定量化することで、排出量が多いプロセスなど、ビジネスモデルの変化に伴う削減ポイントの抽出に役立てることが可能。 ● 温室効果ガス排出量を定量的に見える化したことで、グループ社員全員のサステナビリティへの取組みの士気向上促進に役立てることが可能。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)丸井グループのサステナビリティ部が中心となり、グループ各社の関連部署より数値やデータベース等の情報を収集、一部にシナリオを想定するなどして算定。

2

株式会社丸井グループ

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none"> ● 2019年2月に「丸井グループVISION2050（ビジネスを通じてあらゆる二項対立を乗り越える世界を創る）」を宣言。実現のために、共創を基盤とした3つのビジネスを設定。その中のひとつである、グリーンビジネスを通じて、将来の地球・世代と共存する選択肢の提供を進めております。 ● プライベートブランドにおけるカーボンフットプリントを算定し、特に原材料調達や生産段階の削減においては、サプライヤーと協力した取組みを推進。 ● 今後も、サプライチェーンの温室効果ガス排出量について、継続的に推移を確認し、排出量の削減ポイントを把握しながら取組みを検討。
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 任意の算定範囲も含め、ほぼ全てのカテゴリを網羅して算定。 ● 算定範囲が広範囲であることから、算定にかかる負荷が大きいという課題もある。 ● 今後は算定の目的・算定結果の活用先を考慮し、排出量の少ないカテゴリ、経年変化の少ないカテゴリなどを見極め算定方法の簡易化を考慮できると考える。 ● 削減の取組みにより経年での削減を検討していくカテゴリについては、その効果が反映できるような精緻なデータ収集・算定が必要。 ● その他、算定範囲の一部については、データ収集が難しいなどの理由で算定対象から除外している箇所もあり、全体把握の観点から継続的なデータ収集を検討。
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社では、自社活動が関わるサプライチェーン全体の排出量を把握し、今後の削減ポイントを検討していくことを目的としたため、15カテゴリのうち、任意算定範囲も含めた13カテゴリを算定（残りの2カテゴリは、該当する事業なし）。 ● 任意算定範囲としては、顧客の移動（カテゴリ9）、アパレル製品の洗濯（カテゴリ11）などが対象。

3

株式会社丸井グループ

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2018年4月～2019年3月
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 商品原価、外部委託料	● 金額あたり原単位※1
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資金額	● 金額あたり原単位※1
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● エネルギー別原単位※1.2
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 外注輸送金額	● 輸送金額当たり原単位※1
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物重量	● 重量当たり原単位（リサイクル）※1
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額	● 交通費支給当たり原単位※1
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 通勤交通費支給額	● 交通費支給当たり原単位※1
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● リース物件の床面積	● 床面積当たり原単位※1
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● 入店客数・顧客移動距離（商圈）	● 移動手段別人キロ当たり原単位
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 販売したアパレル商品の種類別重量 ● 年間洗濯回数（オリジナルのシナリオ）	● アパレル商品の洗濯・クリーニングに伴う重量 当たり排出量※3
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 丸井商品、廃棄カード、包装材の重量	● 素材別重量当たり廃棄物原単位※1
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● リース物件の床面積	● 床面積当たり原単位※1
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 該当なし	● 該当なし
カテゴリ15「投資」	● 株式保有率	● 投資先の公表CO2
「その他」	● オプションカテゴリのため除外	●

※1 サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース（ver.2.5）

※2 カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本データベースVer.1.01 ※3 カーボンフットプリント製品種別基準（CFP-PCR）対象製品：ユニフォーム

4

株式会社丸井グループ

サプライチェーン排出量算定結果

・温室効果ガス排出量構成(2018年度実績)

